

## 日吉台地下壕保存の会

## 会 報

## 第 8 号

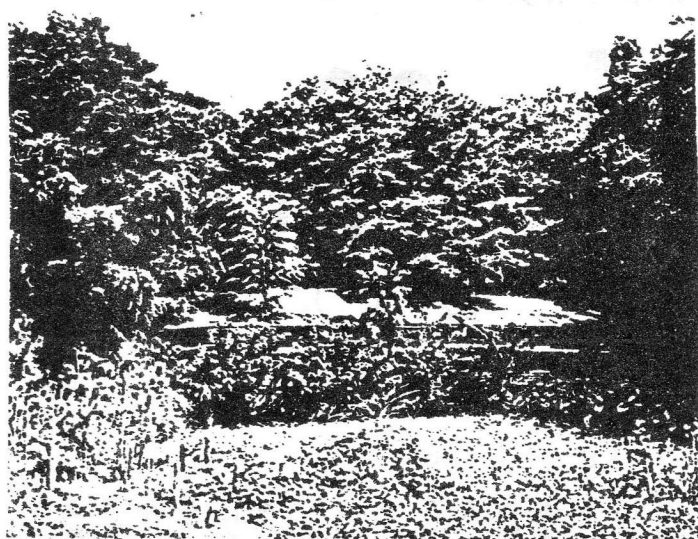
発行 日吉大地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 045-562-1282 (寺田貞治方)



第3010設営隊の飯場跡  
(真ん中に見える建物)

目次	頁
○第2段階にはいる	1
○保存会の活動	1
○陸軍参謀本部	
○地下司令部跡	
○見学会のお知らせ	2
○第1回運営委員会	2
○報告	2
○日吉台地下壕	
○見学会に参加して	3
○日吉台地下壕	
○見学会の感想	3
○9月2日の見学会	
○に参加して	4
○地下壕・地下街	
○地下道・鍾乳洞	
○一雑感一	5
○お願い	
○会費納入について	6
○編集後記	6

## 第2段階にはいる 保存会の活動

事務局長 寺田貞治

会員がついに三〇〇名を越えました。先日、日吉地区センターで地下壕見学会のぼしうの掲示をしたところ、数日で定員の30名の申込があったそうです。人々の関心の深さがひしひしと感じられます。

しかし、私たちの願いも空しく中東情勢は戦争への緊張を強めています。平和への願いをこめた私たちの運動の必要性が、ますます高まってきたのではないのでしょうか。

地下壕の保存については、少し明りが見え始めてきました。区では来年度の事業計画として、市に地下壕の記録及び調査を進める計画を口頭で伝えてあるとの事です。また、それに関する市への報告書も出来あがって見せて頂きました。報告書の内容は、おおむね私たちの考えているのと同じです。

私たちの運動も、市に提出された地下壕の保存に関する事業が、来年度の事業計画で認められるかどうかで、非常に大きな転機を迎えるものと思います。これからも温かいご支援をお願い致します。

陸軍参謀本部  
地下司令部跡  
見学△△の  
お知らせ

日時 二月一日(土)  
午後2時

集合場所 JR中央線  
市ヶ谷駅前

行先 陸上自衛隊  
(改札口は1ヶ所です)  
市ヶ谷駐屯地

内容 極東国際軍事裁判(東京裁判)の法廷になつた大講堂や三島由起夫が割腹する前に激を飛ばしたバルコニー、そして陸軍参謀本部の地下司令部が置かれたとされる地下壕などを見学します。これらの施設は数年後に取り壊される予定です。

申込先 参加人数を確認する必要がありますので、見学希望の方は葉書に住所・氏名・電話番号を書いて、事務局までお送り下さい。

事務局の住所は、会報の1ページに載っています。

申込期限 一〇月三十一日  
注意 小さいお子様の参加はお断り致します



第1回運送学△△委員△△

出版出口

日時 9月18日午後5時半

場所 藤山記念館大会議室

報告事項 事務局長より

1. 会員数2293名

(9月17日現在)

2. 会計

団体会員11組

賛助会員4名

収入257528円

支出52889円

残額204539円

3. 7月12日:会報第7号を印刷・発行

4. 8月13日:区役所へいき、地下壕に関する市への提出書の素案について、幹事会で討議したときの意見について話した。

9月中にまとめて9月末に市に提出との事であった。また原案が出来たらプロジェクトチームのメンバーに見て頂くとのことであった。

5. 8月25、26日:朝鮮人・中国人、強制連行・強制労働を考える全国交流集会開かれる。

6. 9月2日:保存の会主催の見学会。20数名参加。

7. 9月8日:ジャパントムスの記者を案内して地下壕を見学。

8. ジャパントムスに日吉台地下壕と保存の会のことが掲載された。

9. 10月13日:日吉地区センター主催で地下壕見学会を開く予定。

10. 慶應生協学生委員会で地下壕見学会を11月ごろ実施する予定

運営委員より

1. 小蘭さん:国会図書館の県政資料室に英文で書かれた、戦略調査団の資料108冊がある。しかしこれには日吉台地下壕の事は書かれていない。

軍需工場として使われていた地下壕に就いては、会社毎に出ている。佐藤さん:私鉄のトンネルを地下工場や、陣地として使用したところもあったと聞いている。

議事

1. 区から市への提出書の内容について

永戸先生から「最初だからあの程度でよいのではないか」との事であった。

最終的な報告書が出たら検討する。

2. 今後の活動について

調査活動:続けてやる。

見学会:市ヶ谷の地下壕の見学会を10、11月の土曜日にやる。

ヒアリング:登り戸研究所に就いて、法政高校の先生にお願いする。

学習会・講演会：予定無  
PR活動：パンフレットの発行。

3. 署名運動・陳情行動：今後の成行きを見て考える。幹事推薦について

4. 亀岡敦子さん（日吉本町主婦）に次回の幹事会から参加して頂くことに決定。

5. タチソ戦跡保存の会からの保存・公開を求める署名活動への協力の要請について

6. 会報第7号について  
会報第8号の発行は、10月上旬に予定。

7. その他

小園さん：共学舎で日吉台地下壕の見学会をしたという話があった。

梅沢さん：台8校舎裏の地下壕の水が溜れている。

11月ごろの慶應労組の文化祭で地下壕に就いて何かやることはないか。

8. 次回幹事会

10月17日5時半

9. その後の動き：すでに区から市に、口頭で来年度

の計画の1つとして、日吉台地下壕の現状をビデオなどで記録に残すこと、またみだりに地下壕に入らないように入口に扉を取り付けること、などを伝えてある。

報告書も既にまとめられていて、10月中には市に提出する予定との事である。その前に、10月17日（水）プロジェクトチームの会合をもち説明をしたい。また保存会の幹事会（17日）でも説明したいとの事であった。

## 日吉台西中学校地下壕

見学会△△に

参加して

日吉台西中学校保護者

中野弥寿子

1990年5月26日、かねてより話だけは聞いていた地下壕見学会に参加することができた。

寺田先生より、地図その他資料を添えてのご説明があり、

長靴持参で、日吉の街をいつもとは異なった気持ちで目的地まで歩いたのは、私だけではないだろうと思う。

地下壕の内部は、想像以上に堅固で快適とさえ思える空間ではあったけれど、この地下壕を掘り進んだ人々の事など複雑な思いで黙々と歩いた。途中、参加者全員、懐中電灯を消し、真っ暗闇の中で黙ったときは、幼い日の私なりの戦争体験なども併せ思わず目頭が熱くなってしまった。私達の住む街に、戦争を語り伝える貴重な地下壕が存在している。一市民として、平和が永久に続くことを願いながら地下壕保存に関心をもち続けたいと思っている。

（1990年6月）



下田小学校教育研究会  
PART 3

## 日吉台西中学校地下壕

見学会△△の感想

（6月27日実施）

○防空壕と聞いていたので、もっと規模の小さいものを想像していた。行ってみて、帝国海軍の地下壕という大規模なものだったので驚いている。よい体験になった。

○（少し時間的には長かったと思いますが）本当に初めての体験をさせて頂きありがとうございました。小さい頃から防空壕ってどんなものだろうと、戦争に関わる映画など観るたびに思っていましたから・・・

広くて色々な機能が密集していたと思われる。当時の技術を駆使したと思われるその跡を観て、その当時の人々の様々な心を感じとれたように思います。まだまだ多くの色々なものを観たい、知りたいという気持ちがあります。寺田先生ありがとうございました。

○大変、勉強になりました。時間があればもっと先生のお話が聞きたかったです。歴史とは余り関係がありませんが、壕内に植物(菌類)が生えていることには驚き種類など知りたいと思いました。

○とてもよかったです。もっと話を聞きたかったです。○お忙しいところ、準備して頂いてありがとうございます。貴重なお話や見学が出来て本当によかったと思います。

○めったにはいれないような珍しいところに行けて、すごよかったです。地下壕と聞いても、具体的なイメージは何も分からなかったけれども、行ったおかげで「地下」ということが、どういうものか、持たそうしたものを作らねばならなかった状況など、少しだけでも知ることができて、ためになりました。

○身近にこうした史跡があることを知り、驚きました。都合で見学できず、とても残念でした。また見学でき

るチャンスがあれば教えて下さい。講師の先生のお話がとても分かりやすくてよかったです。

## 九月二日の 見学子△云に

### 参加して

今本陽子

前日の一日(土)はご存じのように関東大震災のあった日です。そしてその日は多くの朝鮮人が殺されて言った日です。私達教員の研究会が一日に朝鮮人虐殺の跡を訪ねるフィールドワークをやりました。その時一緒にいった人から、以前から耳にしていた日吉台地下壕の見学会があることを聞き、三重県からわざわざ着ていた三重大学の嶋津先生と一緒に飛び入りで参加させていただきました。

寺田先生の説明でまず驚かされたのが、その規模の大きいことです。まさに網の目のよう。いただいた地図を、後日職場の人にみせたらみな驚いていました。すぐそばの日大高校出身で「俺は日吉はくわしいよ」といった人も地下

壕のことは「知らなかったなあ」と驚いていました。

実際に見学したのは地図を見るとほんの一部のようですが、不安を感じるほどどこまでも続いていました。入口もつきりがんではいるような小さいものだと思っていたので、その大きさにびっくりしました。方向音痴の私はどこをどう歩いているのか、どこも同じように見えて、まるで自分の庭のようにすみずみを説明して下さる寺田先生にただただ感心しておりました。

この中を上官の命令で走りまわっている兵隊の姿が見えたような気がしました。そして、それ以前にモグラのように暗闇の中で強制労働させられた朝鮮人のうめき声が壁にしみついて聞こえてきます。

中を実際に見学しての感想は「何とむなし」の一言につきまします。寺田先生の説明だと司令部はもう負けると思っていたという。無駄だとわかっていることを誰もやめられない狂気。いや、単に「無駄である以上に、たくさんの人

々の犠牲をともなった狂気。

たくさん兵隊や地域の人々はいざとなれば将校をまもる盾でしかなかったのでしょう。それでも、まだそれらの日本人は「お国のため」と信じていたでしょうが、自分の国を踏みつぶされ、ふるさとや家族から引き裂かれて、その支配の中核のために酷使された朝鮮人はさぞ無念だったろうと思います。

朝鮮人労働者は七百人との説明でしたが、中を見るととてもその人数では間に合わなかった気がします。落盤で計画を変更したという説明を聞くと、本当に死者はいなかったのかということも疑問になりました。そして、その人達はどこから連れてこられ、どこへ行ったのでしょうか。きっと飯場も建てられたのだと思います。どこにあつたのでしょうか。会報の6号にもその調査の必要性が述べられていましたが、今後の活動で事実が少しでも明らかになっていくことを期待しています。わたしにとっては2日間のフィールドワークで、ちよっ



と被れましたが、横浜の本当の歴史に触れることができませんでした。暑いなか、資料を準備したり、詳しく説明をして下さいました寺田先生、どうもありがとうございました。

## 地下壕・地下街 地下道・鍾乳洞

—雄雄感—

佐藤林平

慶應義塾が日吉校舎を日本海軍に貸与し始めたのは一九四三年(昭和十八年)以降のことだから、地下壕もそれ以後掘り進められたわけである。

そのころ予科生だった筆者の耳にも、日吉に連合艦隊の総司令部がおかれていたという噂が聞こえてきたが、トツプシークレットに属する延長六〇〇米に及ぶ壕の

話は知る由もなかった。戦後になって壕の存在は公然の事実になったが、筆者が現実にその壕の中に入ってみたのはつい数年前で寺田事務局長などと一緒だった。所々水が溜っていたが、まあまあ保存ぶり(もっとも人の入れる数

百米の部分についての話である)だったと記憶している。

ところで我々の世代の者には、地下壕「防空壕」という

特別の感慨がある。同じ「防空壕」といっても、小は第二

次大戦末期に飛来するB二九

爆撃機の盲爆(同じ空からの

攻撃でも、これを日本機が行

った場合には猛爆と表現され

た)から自分の生命とわずか

ばかりの所有物を守るために

市民がわが家の一隅に掘った

小さな壕から、大は東京及び

疎開先の信州松代にあった天

皇の豪華な地下壕まである。

はたまた、火山島硫黄島の、

地熱のために地下壕など到底

掘れないところにむりやりに

掘ったくもの巣を張り巡らし

たような地下陣地に、日本兵

がただ米軍が日本本土に上陸

する時期を先にのぼすだけの

目的のためにたてこもってい

た話がよくあえてくる。昨

年沖縄を訪れたとき、観光コ

ースに組み込まれていた小緑

の旧海軍地下壕があまりにも

よく整備されていたのでかえ

って違和感をもったものであ

る。

たしかに、地下壕は単なる塹

壕を含めて、地上の陣地より

も安全であろう。

戦争の末期には鉄道の一部

地下路線の運行を停止して、

この部分を工場に転用するこ

とも行われた。阪神電鉄の三

宮一元町間はその例である。

戦争(それも勝てる見込みの

全くない戦争)遂行のために

地下へもぐる。通風が悪く、

照明の不十分な地下壕・地下

施設に多くの人間が際限なく

詰め込まれ、構内は炭酸ガス

が充満する。

話を地下壕だけでなく地下

構築物にひろげてみよう。古

くは、初期キリスト教徒がロ

ーマ帝国の権力の迫害からの

がれるために首都ローマの地

下にはりめぐらしたカタコン

ベ(地下聖窟)(一―五世紀

や、ビザンツ帝国(東ローマ

帝国)の帝都コンスタンチノ

ーブル(現イスタンブル)の

巨大な地下貯水池がある。こ

れらは今観光の目玉となっ

ている。現在では、オーストラ

リアの地下金鉱、イスラエル

のネゲブ砂漠の地下にある核工場が代表例である。これらは何れも安全と秘密の確保のため建造された。

ところで、日本には、東京

の大手町、大阪の梅田、名古屋の栄、福岡の天神など、大

都市が地下に引越したよう

なところが多い。通風、水、

あかり、どれをとっても地上

の街よりよい筈はない。その

上地下街を維持するには莫大

な金がかかる。それでもなお

地下街がどんどん増えるのは、

地下の異常な高騰であり、日

本では新たに土地を求めて街

を建設するよりも地下街の方

が安くつくからである。

地下街が日本の例外とすれ

ば、地下構築物で世界中に見

られるものは地下トンネルで

あるうか。つまり輸送経路と

しての存在であり、居住空間

としてのそれではない。「レ

・ミゼラブル」に登場するパ

リの巨大な下水道(一九世紀

前半)、「第二の男」に出て

くるウィーンの下水道(一九

世紀末)、何れもトンネルの

はしりであろう。都市の交通

機関の主力は、地上交通がまひしている現在、いやでも地下トンネル鉄道（地下鉄）に頼らざるを得ない。

地下壕からすつかり脱線してしまったが、ここで鍾乳洞に触れておきたい。土佐山田の竜河洞に行ったことがあるが、ここには太古人類が居住の跡があると説明されている。鍾乳洞は、日光の欠如、水質の悪さ（石灰を大量に含む水を常用すると骨の病気になるし易い）ということはあるにしても、夏冬寒暖の差が少ないこと、水の豊富なこと、外敵から安全なことなど、狩猟採集時代の人類にとって必ずしも悪い環境ではなかったのである。

鍾乳洞というと、推理小説マニアの筆者には、多摩日原鍾乳洞を舞台にして展開する探偵劇や、中国地方のある洞窟をモデルにした、横溝正史の「八つ墓村」の洞窟が思い出される。軍国主義に入りつつあった戦前の日本では、鍾乳洞が軍隊の演習場として使われたこともあるようだ。

「寺田追記」沖繩にはたくさん鍾乳洞があり、沖縄戦では米軍に追いつめられた日本軍と住民が鍾乳洞に避難した。国民を守るべき日本軍は、住民から食糧を奪ったり、住民を盾に戦ったり、壕から砲弾が飛び交う外へ追い出したり、住民をスパイ視して殺したりしたという。また鍾乳洞の中で、集団自決した人は数知れずといひ、沖繩の鍾乳洞は多くの悲劇の場所であった。

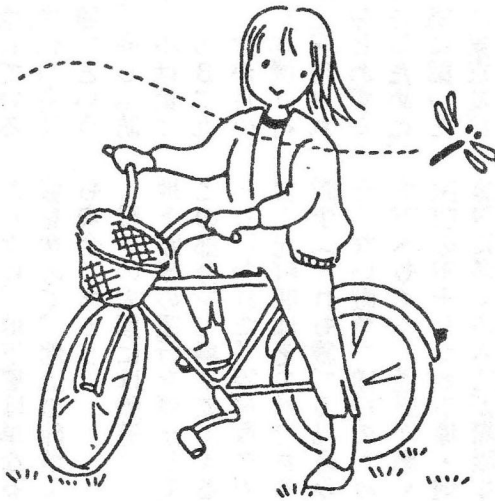
「証言・沖縄戦より」

いの願ひ

（会費納入について）

1990年度の会費未納の方は、是非お納め下さいますようお願い致します。

未納の方には払い込み用紙を同封致しました。既に払い込まれていて用紙が入っておりましたら、悪しからずご了承下さい。念のため一報下されば幸甚に存じます。



姫欄佳未依の日記

◆早くに寄せられた原稿もあり、9月の末ごろに発行する予定がずるずる延びて、やっと発行の運びとなりました。

◆今回たくさんの方の原稿を寄せて頂きました。ありがとうございます。

◆事務局では、様々なグループの地下壕見学会の案内をしてきました。その度毎に会員の数が増え、会報の発送の期間が大変と、嬉しい悲鳴を挙げています。

◆地下壕の保存について既に口頭で区から市に伝えられ、報告書もでき、市に提出するばかりになっています。

◆私たちの運動もようやく、少しずつ実りはじめつつあります。目的がかなうまで粘り強く頑張っていきたいと思ひます。今後とも温かいご支援・ご協力をお願いします。